

2023 年度 大会規定

本規定は、当協会主催の試合に適用する。

【運営】

1. 男子の試合は、全ての大会について A・B ブロック制を採用する。
各チームのブロック分けについては、前年度の大会の成績を主たる基準に、理事会での協議を経て総会で決定する。
2. 県大会および北部ブロック予選大会への出場チームは、次によることを原則とする。
 - (1) 県民体育大会
・ 生駒市スポーツ協会長杯 男子→A ブロック優勝チーム ・ 女子→優勝チーム
 - (2) 支部対抗選手権大会
・ 生駒市ソフトボール協会長杯 男子→A ブロック優勝チーム ・ 女子→選抜チーム
 - (3) 県ブロック大会・北部ブロック予選大会
・ 生駒市ソフトボール協会長杯 男子→A ブロック準優勝チーム ・ 女子→優勝チーム
※予選の成績次第で県ブロック代表争奪大会に出場できる。
 - (4) 県スポレク祭
・ 男子→(参加しない) ・ 女子→生駒市ソフトボール協会長杯準優勝チーム
3. 各大会の抽選会に無断欠席または点呼の際会場に居なかったチームは、その大会への出場を認めない。また、他のチームによる代理抽選は認めない。
4. 組合せ決定後棄権するチームは速やかに会長までその旨を連絡する。この場合、勝敗は「不戦敗」とする。なお、組合せ表で次の試合の審判が「負けチーム審判」となっている場合は、次の試合の開始予定時刻の 1 時間前までに審判員 4 名、記録・総務委員 2 名を必ず派遣すること。
5. 試合中は勿論、施設内での選手等の言動他チームの全責任は監督（不在の場合は代理者）が負う。暴言・暴行等スポーツマンとして相応しくない言動があった場合は該当者をルールによる退場処分とし、チームに対しては協会より書面にて厳重注意の通告を行う。また、1 年以内に再度同様の処分がなされた場合、そのチームについては処分日以後の次の大会への出場を認めない。
6. 集合時刻は試合開始予定時刻の 1 時間前とする。 なお、当日第 1 試合のチームは、担当理事及び担当審判の指示により**協働**してグラウンドの設営並びに試合用具等の搬出を行う。
主たる担当を次のとおりとする。
 - ◆ 一塁側ベンチチーム ； グラウンド外の設営
テントの設営、机・椅子・試合運営文具用品・スコア掲示板・喫煙場所の看板等の搬出及び設置
 - ◆ 三塁側ベンチチーム ； グラウンド内の設営
ラインカー・ベース・石灰・ネット・トンボ等の搬出、ライン引き
7. 最終試合のチームは**協働**してグラウンドの整備及び設置物の撤去・格納等後片づけを行う。
8. ラインアップカード（打順表）は、試合開始 30 分前（試合が連続する場合は速やかに）までに本部席へ 4 枚提出する。また、ラインアップカードには、監督（不在の場合は代理者）名を必ず記載しておくこと。

9. 当日棄権があった場合、次の試合の開始時刻を40分早めることを原則とする。

10. ベンチ規制について

- ① ベンチには監督、コーチ、選手、記録員以外入ってはならない。
- ② 試合中、競技に関係する以外ベンチから出てはならない。

11. グラウンド内は勿論、施設内での喫煙は、指定された場所以外厳禁する。また、ゴミはチームで持って帰ること。

12. 総合公園のAグラウンド付近の通路（道路）及びライト側の駐車場所には駐車しないこと。ボールが車等に当たり損傷しても責任を負わない。なお、駐車スペースの関係で極力乗り合わせて来場する。

13. ファウルボールの回収は原則として攻撃側が行う。

14. 本部席への立入りは協会役員、審判員、記録・総務委員のみとする。なお、本部席での会話は試合の進行に影響しないように留意する。また、協会役員等が本部席もしくはその付近で昼食を摂ることも止むを得ないが節度に留意すること。

15. 審判および記録・総務委員について

各大会の推進は全チームによる相互運営を基本とし、各試合の審判・副審・記録・総務委員などの要請について積極且つ親交的に協力すること。

(1) 決勝戦以外

球審、塁審とも各チームで行う。この場合、球審は審判員の有資格者が行う。

	審判員、記録・総務委員	対象チーム
第1試合	各チーム3名	第2試合の両チームが担当
第2試合以降	6名	前試合の負けまたは勝ちチーム

(2) 決勝戦

審判等は全て協会（審判委員会）で行う。

【注意事項】

- ① 第1試合の審判員等は、試合開始予定時刻の30分前に本部席に集合すること。
- ② 第1試合をはじめ定められた審判等を行わなかったチームは、当該大会への出場を認めない。
(次の試合がある場合は「不戦敗」とする)
- ③ 女子の試合の審判等は協会（審判委員会）が行う。
- ④ また、女子の試合の後、男子の試合の第1試合の審判等は、第2試合の両チームが行うものとする。〔前記「(1)決勝戦以外の第1試合」の項を準用〕
- ⑤ 負けまたは勝ちチームが行う次試合の審判等は、組合せ表に明示する。
- ⑥ 協会（審判委員会）が担当する上記「(2) 決勝戦」について、事情によっては関係チームに審判等を依頼する場合がある。また、4項棄権チームの事情で審判等が実践できないときも前試合のチームに依頼する場合がある。なお、当該事象が発生した場合は、事前に協力要請を行う。
- ⑦ 球審を行う場合は、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガースを着用すること。(捕手用で可)

16. 傷害と物的損害への備えとして、各チームは必ずスポーツ保険等に参加しておくこと。協会としては加入しない。

17. 新型コロナ感染防止対策に関しては別に定める。

【ルール】

試合は 2023 年度 公益財団法人日本ソフトボール協会オフィシャルルールにより行う。但し、次の事項を大会の特別ルールとする。

1. 試合は 7 回もしくは試合時間 70 分を越えて新しいイニングに入らない。
但し、美幸杯の全試合および美幸杯を除く大会の男子各ブロックの第 1 日目の試合時間は 60 分とする。
2. 勝敗は、7 回もしくは所定時間を経過した時点の回が終了時、得点の多いチームを勝者とする。
但し、7 回もしくは所定時間を経過した時点の回を終了しなくても、次の場合は正式試合とする。
 - ① 後攻チームが裏の回の攻撃をしなくても先攻チームより多く得点している。
 - ② 後攻チームが裏の回の攻撃中、先攻チームより多く得点した。(サヨナラゲーム)7 回もしくは所定時間を経過した時点の回を終了時、同点の場合は最終守備者による抽選とする。
3. 次の場合、タイブレークで試合を継続する。
 - ① 所定時間内に 7 回が終了し同点の場合・・・1 イニングのみ行う。
 - ② 決勝戦の場合、7 回もしくは所定時間を経過した時点の回が終了時同点の場合…2 イニング行う。
 - ※ 1 ①②実施後なお同点の場合は、最終守備者による抽選とする。
 - ※ 2 ①②とも日没、荒天、その他特別な事情により試合継続が不可能と判断された場合、タイブレークに変え最終守備者による抽選とする場合がある。(変更は、当該試合の両チーム監督等と協議の上、協会が決定する)
4. 日没、荒天、その他突発的な事情により試合が途中で打ち切られた場合、3 回を終了しておれば正式試合とし、その時点での得点で勝敗を決定する。同点の場合は最終守備者による抽選とする。
但し、3 回を終了しなくても次の場合は正式試合とする。
 - ① 後攻チームが 3 回裏の攻撃をしなくても先攻チームより多く得点している。
 - ② 後攻チームが 3 回裏の攻撃中、先攻チームより多く得点した。(サヨナラゲーム)
5. 所定時間が未経過、且つ 3 回までの途中で勝敗が決していない状態で試合が打ち切られた場合は、無効試合(ノーゲーム)とする。
6. 天候不順等により大会の日程がなくなり、大会の途中で中止せざるを得なくなった場合の措置
中止決定時点で試合が残っているチームすべてを優勝とし、1 勝を与える。また、県大会等への代表チームの決定は、残っているチームの監督による抽選によるものとする。
なお、当該大会以外でグラウンドが確保できた場合は、当該チームの監督と協議し、大会を続行する場合がある。
7. サスペンデッドゲーム(一時停止試合)は採用しない。
8. 得点差コールドゲームは、3 回 10 点差、4 回以降 7 点差とする。
9. 決勝戦に限り、希望があれば試合前のフィールディング(5 分間)を認める。
10. フェアの打球が次の場合は場外とし、エンタイトル・ツーベースとする。
 - ① 総合 SC・A グラウンド・・・ゴロやワンバウンド等で、ライト・センター間後方の通路に設置されたネットの上・下方から出たり、右側の植え込み及び芝生席へ入った場合。
 - ② 総合 SC・B グラウンド・・・ライト後方の相撲場に入った場合。
 - ③ イモ山 C グラウンド・・・・・・・・
 - レフト後方のテニスコートへの通路に入った場合。(通路入口に競技場ラインを引き明示する)

- 1 塁側スタンド擁壁に当たった場合。(側溝の内側に競技場ラインを引き明示する)

11. 外野守備者の危険防止等から外野境界線(白線)を設定する。

次の場合は本塁打とする。

- ① 打球がノーバウンドで境界線を越えた場合
 - ② 両足または片足が境界線から出て飛球を捕球した場合
 - ③ 飛球をフェア地域で捕球しようとしたが、はじいた球がノーバウンドで境界線を出た場合
- 次の場合は、エンタイトル・ツーベースとする。

- ① 打球がワンバウンド又はゴロで境界線を出た場合

12. シューズについては金属製スパイク（針状の金属製スパイクを含む）及びセラミック製スパイクの使用は禁止する。

13. 一塁・三塁のベースコーチはダブルイヤーフラップのヘルメットを着用すること。また、捕手のフルフェイスヘルメットの着用は認めない。

14. 参加申込書に記載のない選手、或は登録選手名を騙った選手（なりすまし選手）が出場した場合、チームに対し次のペナルティを科す。

- ① 試合前または試合中に発覚した場合・・・・・・その時点で試合を中断し没収試合とするとともに、次の大会の出場を認めない。
- ② 試合終了後に発覚した場合・・・・・・その試合は成立とするが、以降の試合および次の大会の出場を認めない。（以降の試合は「不戦敗」とする）

15. 負傷による代替プレイヤーの出場は出血以外の負傷でも認める。

16. 選手不足による棄権を回避するため、以下①~⑥全ての要件を満たす場合に限りサポートプレイヤー（以下「SP」）を認める。

- ①Bブロックに所属するチームであること。
- ②大会第1日目に限り認めるもので、第2日目以降は認めない。
- ③SPはBブロックに登録された選手に限り認める。

※SPについては参加申込書（登録）への記載は不要。

※オーダー表には、打順の下位から「SP」と表記の上、氏名を記載すること。

- ④SPは必ず登録チームのユニフォームを着用すること。
- ⑤SPが投手を担うことは出来ない。
- ⑥SPは3名/チームを上限とする。(9名に満たない人数のみ)

【注】女子ブロックについても、男子Bブロックに準拠し「SP」を認める。

※2023.3.2 【ルール】11の改定

（総会で「外野境界線設定」についてのチーム合意に基づくルールの明確化）